

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 正答数分布

学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸長の度合いを市全体及び学校ごとにまとめ公表する。また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

◆現状・課題

【概要】

- 小学校は国語と算数、中学校は国語と英語が、正答数の多い層が厚く、中学校の数学は幅広く分布している。
- 平均正答率は、中学校の英語で全国平均を上回り、国語、算数・数学で全国平均を下回った。
- 平均正答数(全国)未達の割合は、小学校では、国語で全国平均より10ポイント多かった。中学校では、英語で全国平均より2.3ポイント少なかった。
- 問題の形式が変わったため、直接の比較はできないが、同一集団による伸び率は、国語で高くなっている。

【各教科の課題】

- 《小学校国語》今年度は、「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」は3問共平均を下回り、昨年同様漢字に課題が見られた。しかし、昨年度課題であった「読む能力」は改善している。
- 《小学校算数》今年度は、「数と計算」に課題が見られた。特に、加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題の正答率が全国より5ポイント低かった。しかし、「量と測定」は全国平均を上回った。
- 《中学校国語》年々全国平均を下回る問題が減少している。引き続き「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。
- 《中学校数学》今年度は、すべての領域で全国平均を下回った。その中でも、「関数」に課題が見られた。グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈する問題が全国より8.7ポイント低かった。
- 《中学校英語》全国平均と比較してみると「書くこと」で0.1ポイント低かったものの、他は全国平均を上回った。

◆平均正答率(%)

教科	本市	全国	東京都	
小学校	国語	58.6	63.8	65.2
	算数	65.5	66.6	69.9

教科	本市	全国	東京都	
中学校	国語	72.5	72.8	74.5
	数学	58.2	59.8	61.6
	英語	56.3	56.0	59.5

◆平均正答数(全国)未達の児童・生徒の割合(%)

教科	本市	全国	東京都	
小学校	国語	49.4	39.4	37
	算数	48	46.1	39.5

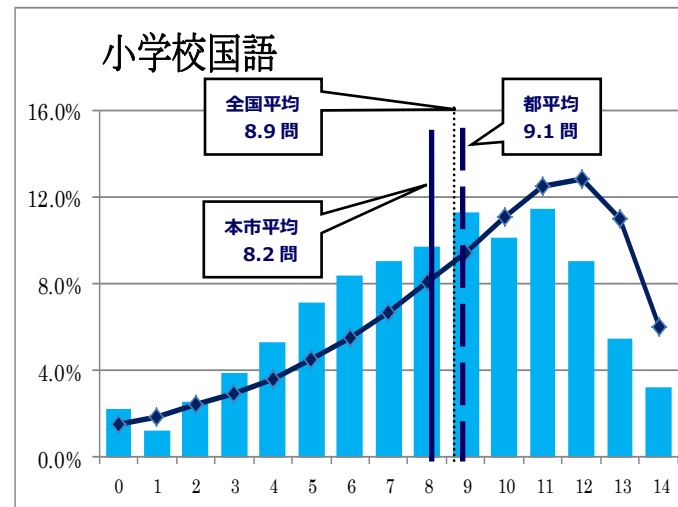
教科	本市	全国	東京都	
中学校	国語	44.9	44.5	40.8
	数学	46.5	44.9	41.5
	英語	44.3	46.6	39.2

◆全国の平均正答率との割合(%)

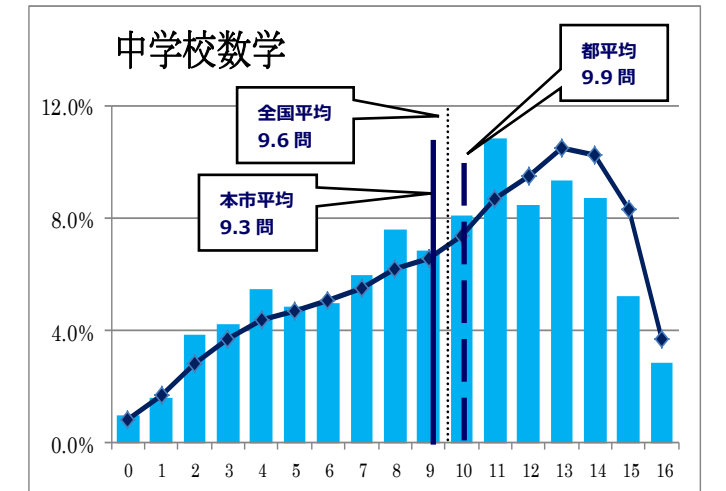
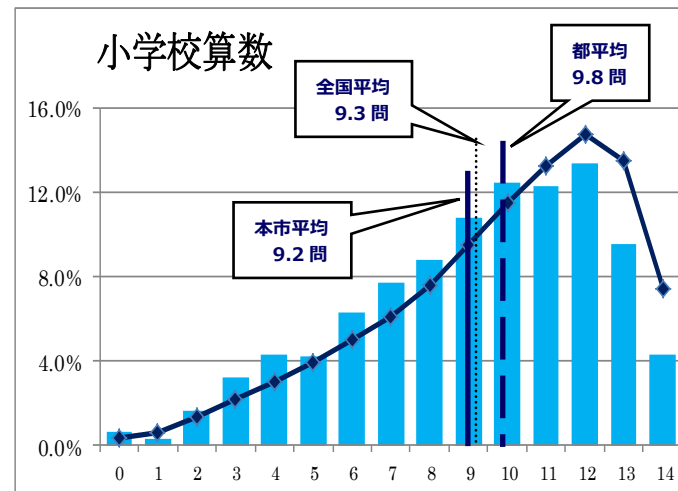
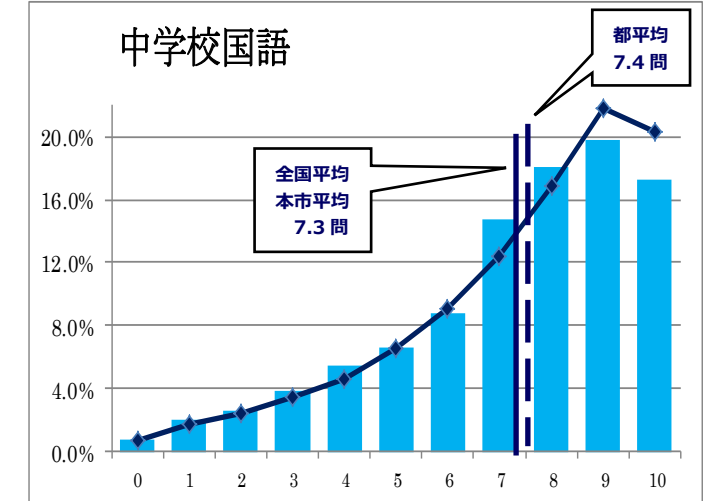
同一集団(平成28年度小学校6年生、令和元年度中学校3年生)における伸び率(全国の平均正答率を100としたときの割合)

教科	H28A問題	H28B問題	R1	
小学校	国語	97.9	96.7	99.6
	算数	97.6	94.3	97

◆正答数分布



調査対象学年：小学校第6学年及び中学校第3学年
棒グラフ：東久留米市 折れ線グラフ：東京都
縦軸：児童・生徒数の割合(%) 横軸：正答数(問)



◆伸び率

